

# かつての「字問」に戻る時

子供の喫煙は体に悪い。子供のスマホも頭に悪い。小中学校の九年間はスマホ禁止、学校のデジタル授業廃止。法律を作り文科省が指導要領で徹底すればできる。聞く読む話す書く教育に集中する。学校教育はこれくらいのコペルニクスの転換をはからなければ手遅れになる時に来ている。

## NIEはなぜ普及しないのか

「NIEで教員の指導力アップ九十一%。子供の「聞く力、話す力」なども向上」という見出しの記事があった(産経新聞七月十二日)。NIEはNewspaper in Educationの略語で、文字どおり「教育に新聞」という活動である。日本新聞協会は全国の小中高校五八一校からの回答を分析して、NIEの調査結果を発表した。それによると教員の指導力が伸びたと答えた学校が九十一%。腑に落ちない。なぜ教員の指導力なのか。

生徒に新聞を読ませる場面で、教員はほとんど指導をしていない。いろいろ強制せず自由に新聞を読ませるのがNIEである。勤続れば、「指導力が伸びた」と答えた教員は普段新聞を読んでいなかったのではないのか。生徒と一緒に読むようになり、遮眼帯がとれた馬のように視野が広くなり、歴史、経済、地理などの知識が豊富になり、生徒に自信を持って指導ができるようになったのではないのか。NIEによって教員の指導力が伸びたという結果は恥ずかしいことである。

元小学校校長で現在高校の国語講師をしているT氏が言う。「就職や進学のための小論文の作成にあたって教師は適切な指導

ができない。提出された論文の添削採点を外部の教材業者に委託しているのが実情です」。こうした教師が新聞を読むようになって、生徒に直接指導できるようになったといったところだろう。子供の能力が伸びたという結果は、素直に「すばらしい」と評価する。「伸びた」と答えた学校は八十七・九十四%もあった。子供の能力が具体的にどう伸びたかという問いには「語彙が増えた」「長文への抵抗感が薄くなった」「書くスピードが上がった」「分たかという問いには「語彙が増えた」「書くスピードが上がった」「分たかという問いには「語彙が増えた」

平均週一回新聞を読むだけでこんな効果がある。NIEは歴史や世界の情勢など社会科の授業の深さを増す。そして何より崩壊しつつある国語の授業を救う有効な手段になる。読書と作文に新聞が加われば鬼に金棒である。NIEを行っていない学校は六〇〇校。全国の小中高校合わせて三万五千校の〇・〇二%である。

NIEは一九三〇年代にアメリカで始められ、現在世界八〇カ国以上が導入している。日本は一九八五(昭和六〇)年から始めた。もう四〇年経過している。教育効果は初めから解っている

経宮管理講座 染谷和巳 428

いが、大人になっていく段階で、知識教養人格を身につけるといふ成長を阻害しているとしたか思えない。子供だけではない。上司が変わった。新しい上司は部下をラインで管理した。夜でも休みの日でもひっきりなしにラインを元に戻す。手書きを貫いている人がいる。新潟で武心教育経営塾を十数年間開いていた塾長近藤建の「武心塾だより」(令和六年六月一三一日)はA3の紙面全部が手書きである。兵庫の新宮運送グループの木南一志社長が出している「こころ便り」(B4)は令和六年六月で二九一号、その裏面の「出合い」は全面手書きである。お二人は複数の人に読んでもらうため、手書き原稿をコピーしてある。もちろんお二人の手紙、ハガキはいつも手書きである。近藤氏はまわりから「読みにくいでワープロにしてくれ」と言われているそうである。私の場合、吉岡千鶴(入社十七年、業務課長)というワープロ名人がいる。頼むと「えっ、もうできたの?」と驚異のスピードで仕上げてくる。それも誤植がほとんどない正確なデキである。本にする時はそのワープロ原稿を何回も推敲して完成させる。削ったり挿入したりでぐしゃぐしゃの手書き原稿をワープロ活字にしてもらうと、新鮮な気持ちで読める。直しが入れられる。初期のもの以外、私の本はすべてこの過程を踏んで出されている。武心だよりの分量は原稿用紙五枚程度。時間も経費もかからない。近藤さん、ワープロマスターは諦めて人に頼んだほうがいい。手書きは自分の考えを率直に伝えることができる。心の状態まで

## 手書きと習字を大事にする人

話を元に戻す。手書きを貫いている人がいる。新潟で武心教育経営塾を十数年間開いていた塾長近藤建の「武心塾だより」(令和六年六月一三一日)はA3の紙面全部が手書きである。兵庫の新宮運送グループの木南一志社長が出している「こころ便り」(B4)は令和六年六月で二九一号、その裏面の「出合い」は全面手書きである。お二人は複数の人に読んでもらうため、手書き原稿をコピーしてある。もちろんお二人の手紙、ハガキはいつも手書きである。近藤氏はまわりから「読みにくいでワープロにしてくれ」と言われているそうである。私の場合、吉岡千鶴(入社十七年、業務課長)というワープロ名人がいる。頼むと「えっ、もうできたの?」と驚異のスピードで仕上げてくる。それも誤植がほとんどない正確なデキである。本にする時はそのワープロ原稿を何回も推敲して完成させる。削ったり挿入したりでぐしゃぐしゃの手書き原稿をワープロ活字にしてもらうと、新鮮な気持ちで読める。直しが入れられる。初期のもの以外、私の本はすべてこの過程を踏んで出されている。武心だよりの分量は原稿用紙五枚程度。時間も経費もかからない。近藤さん、ワープロマスターは諦めて人に頼んだほうがいい。手書きは自分の考えを率直に伝えることができる。心の状態まで

文科学は毎年行っている学力テストをパソコンやタブレットを使った出題、解答に変えることにした。中学三年は来年から、小学六年は再来年から。紙の筆記形式のテストが終了する。教育のデジタル化が国の方針なので、教卓の授業も、先生の顔を見ながら勉強するのではなく、パソコンの画面を見ながら学習する方向に移行しつつある。スピード、正確、便利、省力化が目的である。聞く力、話す力、読む力、話す力、理解力、思考力といった基本的な能力を身につけるのが学校教育の目的ははずだが、こうした目的は片隅に追いやられ、デジタルに強い子、AI競争に負けない人材作りが目的になっている。学校帰りの子供の無表情な顔を見ると、「失敗でした」では済まない暗い未来が見える。NTTドコモの研究機関の最近の調査によると、中学生のSNS利用者は九十六%だという。

デジタル教育がSNS中毒を SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)とは情報の交換と共有のためのシステムである。主なものにライン、インスタグラム、ティックトック、X(ツイッター)、フェイスブックがある。小中学生全体では六十三%。小学生低学年は五年前は十一%だったが今回は三十六%。十人に一人が三人に一人に増加している。SNSのうちでもラインの利用がトップで、女子中学生の九十四%が利用している。本を読まず文章を書かないので、言語表現が貧弱。イイネ、キモイ、チョームカつくなどの汚い幼稚な言葉があふれている。中学生の中には毎日数百件のラインが送られてそのチェックと返事に忙殺されている人がいるという。網にかかった魚のようにそこから逃がれられない。その網の中で自分が制御できなくなり心を病んでゆく。これがいじめや詐欺犯罪の温床

## デジタル教育がSNS中毒を

デジタル教育がSNS中毒を SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)とは情報の交換と共有のためのシステムである。主なものにライン、インスタグラム、ティックトック、X(ツイッター)、フェイスブックがある。小中学生全体では六十三%。小学生低学年は五年前は十一%だったが今回は三十六%。十人に一人が三人に一人に増加している。SNSのうちでもラインの利用がトップで、女子中学生の九十四%が利用している。本を読まず文章を書かないので、言語表現が貧弱。イイネ、キモイ、チョームカつくなどの汚い幼稚な言葉があふれている。中学生の中には毎日数百件のラインが送られてそのチェックと返事に忙殺されている人がいるという。網にかかった魚のようにそこから逃がれられない。その網の中で自分が制御できなくなり心を病んでゆく。これがいじめや詐欺犯罪の温床